

平成28年度 横浜市市民活動支援センター自主事業部門

(補助事業：平成26年度から平成28年度の3か年事業)

事業名：「みんなで作る！『Spice+ (スパイスプラス)』若者の参加による現場体験データベースの作成とマッチングと協働の仕組みづくり」事業

平成28年度 横浜市市民活動支援センター事業報告書

実施団体：特定非営利活動法人 アクションポート横浜

事業報告書

事業名	みんなで作る!「Spice+」 ～若者の参加による現場体験データベースの作成とマッチングと協働の仕組みづくり
テーマ	地域の課題解決に市民等が取り組むための支援を行う
提案分野	市民活動に関する人材育成事業 若者の地域活動への参加の促進 多様な主体間のネットワークの構築、促進
事業運営	<p>横浜市市民活動支援センター事業を担う他団体との協力・連携 (横浜市市民活動支援センター事業を担う他団体(自主事業部門・運営事業部門)と相互に協力・連携が果たされたか。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連絡会議への参加: 自主事業運営団体・運営事業運営団体との定期的な会議に参加し、情報交換及び意見交換を行った。 ・イベントや研修会への参加: 運営事業団体が主催するイベントや研修会に参加し、事業の説明を行うなど連携した事業運営ができた。 <p>予算(経費執行が適正であるとともに、経費節減の工夫がされたか。)</p> <p>収入面では、期待していた gooddo! での寄付金が大きく目標額を下回り、財源の安定化に向けては課題が残った。一方で支出面では、前年までに WEB システムの土台ができていたことや、イベントではプロボノや受入れ団体の協力を得ることで、労力予算共に低コストで最低限の質を維持したコンパクトな運営が可能になった。</p>
事業計画	<p>事業内容(事業内容は市民公益活動のニーズを捉えたものか。)</p> <p>1、発信の担い手となる若者レポーターを育成し、NPO の情報を収集 本年度も引き続き学生や若手社会人向けにレポーター養成講座を年2回実施。昨年度までの実績をもとに、講座の内容は記事の書き方などのスキル面よりも、経験者を含めたレポーターのグループを作り一緒に活動の機会をつくるなど、初めて活動体験する若者のニーズにより合わせた内容にした。 また、レポーターとは SNS を通して進捗確認を密に行い、活動後のフォローアップも厚く行った。</p> <p>2、体験活動データベースの作成 web サイトについては、昨年度までに構築したシステムをベースにローメンテナンスの運営を試みた。アイコンや配色など、より見やすいサイトづくりの工夫をした。</p> <p>3、体験活動データベースによる情報発信 レポーターが集めたデータベースを蓄積・発信した。SNS やフライヤーによる口コミでも情報拡散し、総ページビュー数は累計 33,757PV を達成した。</p> <p>4、受入団体を中心とした団体間ネットワークの提供とノウハウの発信 本事業の成果報告の場として、過去の掲載団体とこれから新たに地域で活動を始めようとする若者のマッチングイベントを開催した。単に事業報告をして終える形ではなくマッチングを試み成立したことで、本事業の次年度に向けた新たな展開の可能性を見出した。</p>

事業計画（実施時期や方法が適切で、計画通りに実施されたか。）

1、発信の担い手となる若者レポーターを育成し、NPO の情報を収集

◆活動レポーター養成講座及び定例会の実施

- ・活動レポーター参加者の募集し、登録者数 80 名 (28 年度は 32 名登録) を達成した。
- ・レポーター養成講座を年 2 回実施した。
 - 日時：8 月 8 日(月) 14:00-16:00
 - 場所：横浜市市民活動支援センター
 - 参加者：8 名
 - 日時：2 月 11 日(土)17:00-19:00
 - 場所：神奈川県民活動サポートセンター
 - 参加者：12 名
- ・過去の先輩レポーターが新規参加者のサポートをしたり、各レポーターとは SNS 上で進捗確認も密にすることで、講座後のフォローアップも行った。

◆掲載受入団体の募集

- ・70 記事のアップが目標のところ、結果として 63 記事のアップとなった。天候による活動の中止や、活動体験後も記事作成のための情報収集のための団体間との調整に手間取った活動もあり、1 体験に対する確認作業の簡易化が課題となった。ただし、3 年間で掲載団体数もほぼ目標を満たすことができたので、今後の展開としては、掲載活動の周知拡散と参加者の定着により重点を置きたい。

2、体験活動データベースの作成

◆データベースの発信力の向上

- ・掲載記事数が増加し、常設の活動体験以外にも現場ツアーや単発のイベント記事等、記事のバリエーションも多様になったことに伴い、サイトも記事種別にカテゴリーを設けることで、見易さに配慮した。

3、体験活動データベースによる情報発信

◆データベースの情報発信及び広報

- ・SEO 対策として、画像データのテキスト化を行うことで、検索エンジンの最適化を試みた。その他、SNS やフライヤーによる口コミでも情報拡散した成果として、総ページビュー数は累計 33,757PV、3 年間のページユーザー数は 10,444 を達成した。

◆現場ツアーの開催

- ・3 月 11 日(土)、3 月 12 日(日)に現場体験ツアーを実施した。各日の参加者は 4 名、5 名。
- ・それぞれのツアーでは、過去のレポーターと今年度の養成講座に参加した学生が中心となり、学生がアポイントから当日の催行までの活動ツアーの企画運営を実施した。
- ・当日は団体と連携したまち歩き企画や、こども学習教室のミニイベントの運営を行った。
- ・前年度までの経験のある先輩レポーターと新規の参加者が一緒に企画をすることで、初めての参加者にとっても安心して関わるきっかけとなった。感触としても、レポーター養成講座よりも現場ツアーの方が参加者の関心が高く、活動の入り口づくりとしてより有用性を感じた。

4、受入団体を中心とした団体間ネットワークの提供とノウハウの発信

- ・本事業の成果報告の場としてマッチングイベントを開催した。
 - 日時：3 月 4 日(土)15:00-17:00
 - 場所：横浜市開港記念会館
 - 受入れ団体：NPO 法人グレースファミリエ, NPO 法人地球学校, 大倉山おへそ

- ・また、上記マッチングイベントに先立って以下のセミナーを実施した。
 - ①NPO 向けセミナー[若者受入れのポイント講座]
 - 日時：2月24日(金) 19:00-21:00
 - 場所：横浜市市民活動支援センター
 - ②若者向けセミナー[若手社会人の活動を知る座談会]
 - 日時：3月4日(土) 13:00-15:00
 - 場所：横浜市開港記念会館
- ・イベント成果として若者と団体のマッチングが成立した。
 - NPO 法人グレースファミリエ：若手社会人6名
 - NPO 法人地球学校：若手社会人6名
 - 大倉山おへそ：若手社会人6名
- ・ Spice+の掲載団体と、新たに地域で活動を始めようとする若者のマッチングが成立したことで、今後の活動展開の可能性を見出すことができた。
- ・3月4日(土)のイベントアンケートでは、以下のような回答が得られた(回収6名)。
 - 若者向けセミナーの内容：参考になった6, ふつう0, 参考にならなかった0
 - NPOのプレゼン内容：わかりやすい5, わかりにくい0, 工夫が必要1
 - 今後の活動につながるきっかけ：あった6, なかった0
- ◆ **事業継続運営に向けた検討**
 - ・今回実施したようなマッチングのパターンを増やしてプログラム化することで、独自事業としての収益化も図りたい。
 - ・今年度の実績から gooddo を安定した財源と捉えることは難しいが、今後は活動参加時等に呼びかける等して、事業に紐づけた寄付ツールとして活用方法を考えたい。

期待される効果 (市民の満足度が高まり、具体的な効果があったか。)

- ・ 地域活動の「入口」の選択肢が増えた。
- 本事業を通じて、「レポーター」「現場ツアー」「マッチングイベント」をきっかけにして、多くの若者が初めて地域で活動する機会が生まれた。若者から直接問い合わせもあり、何かしたいとは思っているが特定の活動のイメージが無かったり、それまで関係性のなかった地域コミュニティへどのように参加すればいいのかわからず困っているというような声が多かった。「レポーター」「現場ツアー」「マッチングイベント」といった活動の入口になるきっかけが増えたことと、“一緒に活動参加してくれる伴走者”が初めての参加者の不安や緊張を和らげ、活動参加を後押しすることにつながった。
- ・ 活動参加から団体への定着までの流れをつくることができた。
- 特に本年度の成果として、マッチングイベントの成果が挙げられる。今後 Spice+のデータベースから、団体への若者定着を求めている NPO を募集して、マッチングイベントを実施する、一連の定着までのストーリーをプログラム化することができた。
- ・ 若者の受入れ実践を通じた団体の課題発掘
- 本事業を通じて若者を受入れた団体の中には、人員募集をしたいニーズはある一方で日々の活動の運営で手いっぱいとなり、受入れまで至らない団体も少なくなかった。今回の各種体験活動の受入れに伴い、新規参加者と団体の間に伴走者が入ることで、若者のニーズを間接的に団体に伝えることができ、受け入れのミスマッチを防ぐと共に、若者の受入れを考える際に改めて団体の課題を見直す契機となった。
- また、参加団体の中では情報発信を不得意とする団体も多く、Spice+の記事から問い合わせ等に発展した実績も生まれ、新たな広報ツールとしても Spice+のレポートの効果が見られた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>レポート体験を通じた伴走者育成による、団体支援効果</u> <p>3年間の様々な活動体験を通じて、活動初心者が徐々に活動に慣れ、次のレポート体験時やマッチングイベントにおいて、新たな参加者と受入れ団体をつなげる伴走者として活躍するようになった。結果、若者は初心者から伴走者として成長し、団体はその伴走の元に新しく若者を受入れることで少しずつ課題解決のきっかけになったり、活動の幅を増やすことができた。若者と団体のマッチングにより、市民活動の底上げすることができた。</p>
<p>自 己 評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>活動体験数増加の仕組みづくり</u> <p>本年度は単発のレポートや現場ツアーに加え、「マッチングイベント」の企画運営を丁寧に行なったことで、活動参加のきっかけを更に増やすと共に、若者が地域の団体や関係者とコミットして定着していく仕組みを試験的に形作ることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>マッチング受け入れを通じた団体支援効果</u> <p>若者の受入れに当たってはその価値を活かすためにも、団体にとっては抱えている課題を改めて考えなおす必要性が生まれた。一度に根本的解決できないにしても、今後取り組みを継続することで、団体の課題を解決し発展させる支援につながることを期待できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>事業収益化が課題</u> <p>活動体験数やレポート閲覧数は増えたものの、収益化には課題が残った。ただ、この3年間でWEBやデザイン、レポーターの仕組みの基盤はほぼ作りきることができたので、今後は低コストで運営ができると考えている。</p>

この書類は、横浜市市民協働条例第7条第4項の規定に基づき、一般の閲覧に供しなければなりません。

(第10号様式)

事業収支決算書

【収入】

(単位:円)

項目	金額	説明
横浜市市民活動支援センター事業補助金	1,750,000	横浜市から
団体負担金	410,540	
WEB広告収入・寄付	58,580	gooddo、その他
現場ツアー参加費	15,000	500円×30人
合計	2,234,120	

【支出】

項目	金額	説明(使途、積算根拠等)
人件費(事業責任者)	1,260,000	15,000円×5人日×8カ月 15,000円×11人日×4カ月
人件費(事業担当者)	624,000	13,000円×6人日×3カ月 13,000円×6人日×5カ月
交通費	104,679	事業責任者、事業担当者
WEBサイト作成費	65,000	一式(サーバー代、メンテナンス費等)
ライター講習講師代	30,000	
受入団体向け情報交流会	7,511	会場費等
事例集印刷費	69,120	一式
現場ツアー謝金	15,000	団体謝金等
消耗品費、通信費 一式	12,810	一式
横浜市市民活動支援センター内スペース使用料	46,000	@4,000円×11.5か月
合計	2,234,120	

この書類は、横浜市市民協働条例第7条第4項の規定に基づき、一般の閲覧に供しなければなりません。